「いとし腕」

わかな　（40 代）

妊娠、出産、育児をしてたくましくなった私の腕を見て夫が言う。

「ママの腕は太くなったなぁ。」

一瞬イラっとしたけど、この手の話をされた時の反論は決めてある。

「この腕は、可愛い子供二人を生んで、育てて、頑張ったからたくましくなったんだよ！」

私が強めに返すと、「そうだね、頑張ってるね！きれいだよ！！」と、夫は慌ててフォローをする。

そんなやり取りを見ていたからか、ある日５歳の長男がいたずらっぽい顔をして言った。

「僕の腕は細いよ！ママの腕は太いけどね！」

いつも褒めてくれる可愛い長男が言った一言にショックを受けながらも、この後が大事な気がして私は気合を入れて返した。

「ママの腕は太いけど、いとしい、いとしい腕なんだよ。」

「どういう意味？」

長男が不思議そうに尋ねた。

「いとしいっていうのはね、かわいくて、大好きで大事だなっていう気持ちの事だよ。」

我ながら、わかりやすく伝えられたのでは、と満足していると、「なんで？」とさらに長男が聞いてきた。

「まさくんとめぐちゃんをたくさん抱っこしてきた腕だからだよ。荷物があっても、大好きな二人を抱っこしたかったからママの腕は頑張ってたくましくなったんだよ。」

私の返答を聞いた長男は、「ふーん、そうなんだ。」と真顔で軽く答えただけだった。響いていないなぁ、とがっくりきたけど、まぁいいかとも思った。

次男が産まれてすぐのころ、私に抱っこされている弟を見て『僕も抱っこして』と長男はよく泣いていた。泣いている３歳の長男を見て、荷物と次男を抱えた３８歳の私も『もう無理だ』と、泣きそうになったっけ。それでも『いや、いける！』と自分を奮い立たせて長男を抱きあげた。そんなことが何度もあった。

大事な子供たちを支えた私の腕、頑張ってきたなと思う。

本当は自分でも太くてただ隠したい腕だったけど、実はいとしい腕なのだと気がついたから、もうそれでいい。

毎晩布団に入ると二人の子供は私の腕を枕にする。ある日、私の右腕を枕にしようとした長男が言った。

「いとし、いとしだよね。」

私は何のことが分からず「ん？なんのこと？」と尋ねた。

「僕と、めぐちゃんをたくさん抱っこしたから、たくましくなったんでしょ？」

ニコニコした顔で長男が言う。そこで、いとしい腕の話を思い出した。

「そうそう、この腕は二人を大切にしてきた、いとし腕だよ。」

私がそう言うと長男は満足そうに目をとじた。そして、嬉しそうな顔で大事そうに私の右腕を両手でつつみこんだ。

次男は私の左腕を枕にしてすでに寝息をたてている。二人ともかわいくて、大好きで大事だなと思う。

太い腕を出したくないと悩んでいる私に「変じゃないよ！似合うよ！」と、本気でノースリーブの服を勧めてくる夫も実はいとしい。

今年は５年ぶりにノースリーブの服を買った。いとし腕はもう隠さない。